

ビデオ視聴と自他レポート吟味による 批判的思考力育成のための授業設計評価

Evaluation of Course Design to Promote Critical Thinking Skills by Documentary Video Viewing and Mutual Essay Review

仲林 清^{*1*2}

Kiyoshi NAKABAYASHI^{*1*2}

^{*1}千葉工業大学, ^{*2}熊本大学

^{*1} Chiba Institute of Technology, ^{*2} Kumamoto University

Email: knaka@net.it-chiba.ac.jp

あらまし：講義型の多人数授業で批判的思考を促すための授業設計と評価を行う。学習者が既有知識を有すると想定される問題領域の知識体系を説明し、その観点に基づいて具体事例のビデオ視聴、分析レポート提出を行う。次回授業で全員のレポートを配布、適宜紹介し、自他の考えを比較・吟味させる。この過程で、批判的思考の「規準に従う論理的・合理的思考」、「推論プロセスを意識的に吟味する内省的思考」、「文脈に応じた目標志向的思考」という観点を意識させる。コンビニのビジネスモデルを扱った授業実践にこの設計を適用した内容と結果を述べる。

キーワード：批判的思考、ドキュメンタリービデオ、理論と経験の対比、既有知識の活用

1. はじめに

批判的思考力は、21世紀型スキル⁽¹⁾の中に位置づけられるなど、多くの論考や教育実践が存在し、その重要性は論をまたない⁽²⁾⁻⁽⁴⁾。本稿では、講義型の多人数授業で、批判的思考を促進するための授業設計とその実践結果について述べる。批判的思考は「規準に従う論理的・合理的思考」、「推論プロセスを意識的に吟味する内省的思考」、「文脈に応じて実行される目標志向的思考」という3つの観点で定義される⁽⁵⁾。また、批判的思考の教育方法は大きく、「一般原則を教えるジェネラルアプローチ」、「特定科目の中で批判的思考を明示的に教えるインフュージョンアプローチ」、「特定科目の中で批判的思考を誘発させるイメージングアプローチ」に分類される⁽²⁾⁻⁽⁴⁾。いずれの場合でも、学習者の相互作用促進のためグループワークなどを取り入れる形態が多いため⁽⁴⁾、多人数授業への拡張が難しいという問題がある。また、学習者の協同が必ずしも効果を産まないというメタ分析も存在する⁽³⁾。これに対し、本研究はグループワークなどを伴わない講義型の多人数授業で批判的思考を効果的に促すための授業設計の確立を目指す。

2. 提案する授業設計⁽⁶⁾

本授業設計は、前述の批判的思考の3つの観点を包含し、「特定科目の中で批判的思考を明示的に教えるインフュージョンアプローチ」に近い形態を採用。

授業設計の枠組みを図1に示す。学習者が経験・既有知識を有すると想定される問題領域の理論・知識体系を説明し、知識体系の観点に基づいて具体事例のビデオを視聴させ、分析レポートを提出させる。次回授業で全員のレポートを配布し、教員が適宜紹介して、自他の考えを比較・吟味させる。必要に応

じてこれを繰り返す。この過程において、上記の3つの観点を明示的に伝えることで、以下のように批判的思考を促進する。

● 観点1：規準に従う論理的・合理的思考

対象問題領域として、「組織における問題解決」⁽⁷⁾、「企業のビジネスモデル」⁽⁸⁾など、筆者らがこれまで授業実践で扱ってきたものを取り上げる。これらの領域では、明確な正解はないが、経験から導かれた体系的な理論や知識が存在する。これらの理論・知識を現実の場面に適用したレポートを作成させることで、状況の論理的な分析が可能となり、合理的な解決策の見通しが得られる、という思考を促進する。

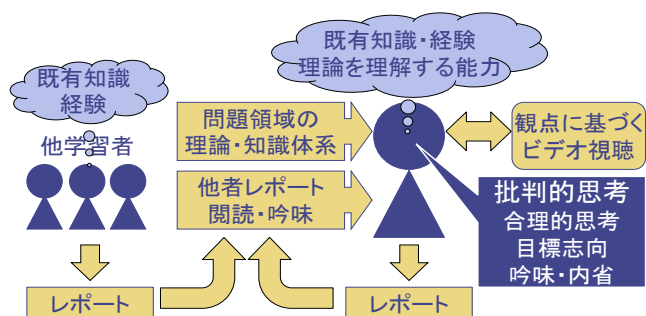


図1 授業設計の枠組み

● 観点2：推論プロセスを意識的に吟味する内省的思考

批判的思考において、自身の思考をメタ認知的にモニタリング・コントロールすることは非常に重要である⁽⁵⁾。本研究では、これを促進させるため、他者レポートの閲読を活用する。同じビデオを視聴してこれを体系的知識を適用して様々に解釈していると

考えられる他者のレポートを閲読させ、自身の解釈・分析と比較させることで、自身の思考プロセスを内省的に振り返らせる。

● **観点 3：文脈に応じて実行される目標志向的思考**

批判的思考は、現実の目標に照らして適切な状況で発揮することが重要である⁶⁾。ビデオでは、現実の真正な文脈における登場人物の問題解決行動が描かれる。彼らの問題解決の目標・文脈に鑑みて、脱文脈化された体系的知識をその状況に適用することが適切か否かを検討させることで、文脈に応じた目標志向的思考を促進する。

3. 実践内容と結果

コンビニエンスストアのビジネスモデルを扱った授業⁸⁾に、提案した授業設計を組み込んだ。授業構成はもともと図1に沿ったものとなっており、全4コマのうち最初の3コマでビデオの視聴とレポート課題提示を行う。今回は、レポート課題提示の際に、前章で述べた3つの観点を説明し、これを意識してレポートを書くように促した。また、授業アンケートで3つの観点に対応した項目を追加した。

2022年度前期に情報系学部の1年生向けの科目でオンデマンド形式で授業を実施した。授業アンケートの結果を表1、表2に示す。表1では2021年度の結果も示している。これは、3つの観点を説明せず、アンケート項目だけを追加した結果である。

表1 授業アンケート（7件法，上：平均，下：SD）

	2021 n=151	2022 n=145	p 値
内容は理解できた	5.71 0.88	5.83 0.84	.211
このような内容を今後も学んでみたい	5.28 1.14	5.63 1.07	< .01**
情報技術と産業の関係について新しい知識を得た	5.63 0.91	5.82 0.92	.073+
コンビニが「流通革命」と呼ばれた理由の理解度：受講前	3.52 1.57	3.65 1.53	.489
同上：受講後	5.62 0.75	5.90 0.85	< .01**
オンライン授業は自由な時間に学習できてよい	6.43 0.99	6.61 0.89	.096+
* コンビニの経営方針を筋道を立てて考えることができた	5.34 0.91	5.54 0.83	.049*
* 主人公たちが問題を解決していく思考過程が理解できた	5.82 0.90	6.00 0.84	.079+
* 他の人のレポートの内容から何に着目したのかを考えた	5.22 1.09	5.48 1.05	.039*

*は追加したアンケート項目

表1では、既存の質問項目も含め、全般に2022年度の評価が向上している。観点1の「論理的思考」については、表1の「経営方針を筋道を立てて考えることができた」という項目に有意差が見られ、表2の自由記述でも「論理的に考えることを意識した」

という主旨の記述があった。観点3の「文脈思考的思考」については、表1の「主人公たちの思考過程が理解できた」という項目に有意傾向があり、表2でもコンビニの利用経験と創設者の考えを結び付けているコメントが見られる。観点2の「内省的思考」についても、表1の他者レポートの着眼点に関する項目で有意差があり、表2でも自他の視点を意識した記述や、自分のITに関する学びを企業経営の観点から見直したい、という記述があった。

今回の結果は、アンケートの一部のみで、自由記述コメントやレポートの分析は今後の課題である。また、本研究の枠組みは他の授業にも適用可能であり、それについても今後検討を進める。

表2 授業アンケート自由記述コメント

感動的なビデオをなるべく客観的に見ようと努力したことは、雰囲気にならずに論理的に考えることのいい練習になったと感じた。
何気なく日常的にコンビニを使っていたが、その販売形態について深く考えたことがなかった。しかし、在庫の管理や売っている商品などあらゆることに創設者達が地道に考え、行動してきたことが反映されていた。
自分だけだと視野が狭くなりがちで一面的な情報しか読み取れてなかったが、他の人のレポートを読んで様々な視点で振り返ることができた。
自分はこれまで(略)便利なアプリケーションやシステムを作り出していかということばかり考えていたが、(略)POSシステムの様な画期的なシステムはセブンイレブンが長年効率化してきた経営方針とIT技術を融合させて結果なのだという事を学んだ。このことから自分は、IT技術だけでなく他の分野のシステムについての知見を深めていきたいと思うようになった

参考文献

- (1) P.グリフィン, 他(編), 三宅なほみ, 他(監訳): “21世紀型スキル: 学びと評価の新たなカタチ”, 北大路書房(2014)
- (2) Ennis, R.H.: “Critical Thinking and Subject Specificity: Clarification and Needed Research”, Educational Researcher, 18, pp.4-10 (1989)
- (3) Abrami, P.C.: “Instructional Interventions Affecting Critical Thinking Skills and Dispositions: A Stage 1 Meta-Analysis”, Review of Educational Research, 78, pp.1102-1134(2008)
- (4) 道田泰司: “批判的思考教育の展望”, 教育心理学年報 52, 128-139 (2013)
- (5) 楠見 孝 (2011) 批判的思考力を育むー学士力と社会人基礎力の基盤形成ー, 有斐閣.
- (6) 仲林 清, 田中孝治, 池田 満: “ビデオ視聴と自他レポート吟味による批判的思考力育成のための授業設計”, 教育システム情報学会第46回全国大会論文集, p159-160 (2021)
- (7) 仲林 清: “組織における問題解決を主題とするビデオとオンラインレポートを活用した授業実践”, 教育システム情報学会誌, Vol.32, No.2, pp.171-185 (2015)
- (8) 仲林 清: “ビジネスモデルにおけるITの活用を主題とするビデオとオンラインレポートを活用した授業実践ーコンビニエンスストアの事例を題材にー”, 教育システム情報学会誌, 34(2), pp.131-143 (2017)